



## ● 概要

V1SBHLは、インターポレータ（逡倍器）を内蔵しています。サイン波出力のエンコーダを使用することで、A相、B相を逡倍し、超精密位置決めを可能にします。また、粗動／微動の動作モードがあり、エンコーダの逡倍率を変更し、高分解の位置決めが必要なときは「微動モード」、高速で移動させるときは「粗動モード」に切り替えて動作します。ピエゾを使わずにナノメータ単位の制御ができます。また、ピエゾ特有のヒステリシスがありませんので、軌道制御をすることも可能です。

このボードにはパワーアンプは含まれておりませんので、別途、用意していただく必要があります。弊社推奨といたしましては、[LA220（DCモータ用）]、[LP320S（3相ACモータ用）]などがあります。

高精度なモータ及び、高分解能なエンコーダと合わせて使用することで、ナノメータ単位の超精密位置決めが可能となります。V1SBHLは、超精密位置決めに最適な制御ボードです。

## ● 特長

1. 通常偏差カウンタに溜まりを持たない為、指令パルスとエンコーダパルス（追従）が一致し、指令パターンと追従パターンとの移相遅れがありません。  
(Phase - Locked Loop)
2. 2軸ドライバの相関関係を正確にトレースできます。
3. 微量送りにも即応性を発揮します。
4. サンプリング制御をしていないので非常に高速応答です。
5. 逡倍器は、CPUを使用しないでCPLDで演算しています。遅延時間が非常に小さく（500nS）、高速応答です。
6. 粗動、微動の採用で高速移動が可能です。

## ● 用途

超精密ボイスコイル型リニアモータ、XYステージ、その他。  
特に、微量送りの高速位置決め（数mSec）や、0.8 $\mu$ mの高分解能サイン波出力リニアスケールを用いたリニアモータの位置決め、及び位置・速度を同期させ加工する様な超精密マシンに最適です。  
(パワーアンプは、付属していませんので、モータに応じたリニアアンプを使用してください。)

## ● 定格及び仕様

V1SBHL仕様書 [ダウンロード](#)

BACK